

第31章 地域編⑦：カリマンタン

1. 地域概要

(1) 概要

①インドネシア国内における経済的地位

カリマンタンは、インドネシアの中部に位置するボルネオ島の一部である。島全体の面積は 72.6 万 km² で、インドネシア領はこの内の 54.4 万 km²（日本の約 1.4 倍）を占める。同島中部でマレーシアと国境を接し、また同島北部にはブルネイ・ダルサラーム国がある（図表 31-1）。

カリマンタンは行政上、5 州（西カリマンタン州、中部カリマンタン州、南カリマンタン州、東カリマンタン州、北カリマンタン州）から構成される。また、カリマンタンは天然資源が豊富で、石炭、石油、天然ガス、鉄鉱石、ボーキサイト、金などが産出される。

図表 31-1 カリマンタン（地図）



（出所）白地図専門店（三角形）より作成

これらの特徴から、内資・外資両方によって東カリマンタン州バリクパパンなどを中心に天然資源開発を目的とした進出が活発である。また、「東洋のベニス」と呼ばれる南カリマンタン州都のバンジャルマシン、オランウータンが生息するタンジュン・プティン国立公園など、観光資源も豊富である。他方、全国平均の 5 分の 1 程度という人口密度の低さと、後述する交通インフラの未整備から販路の構築・維持が難しいため、地域内の消費市場を狙った事業進出はまだまだ限定的といえる。ジャカルタからカリマンタン東部へ首都を移転する法案が 2022 年 1 月、可決した。新首都名は「ヌサンタラ」の予定である。首都の移転費用は 466 兆ルピアと試算されており、大部分を PPP により賄う計画である。

②工業団地・日系企業進出動向

2021 年のカリマンタン地域の外国直接投資 (FDI) の受入総額 (実行ベース) は 24.5 億ドルで、全国の 8.2% を占めた。同地域の中で最も多くの投資を受け入れた州は東カリマンタン州 (14.9 億ドル) である。東カリマンタンは石炭、石油、天然ガスといった資源が豊富である。

カリマンタンには高質とされる石油資源が賦存するため、国営石油企業プルタミナ、トタル、シェブロンなどのオイルメジャーをはじめ、各国の石油開発関連企業の進出が盛んである。日系企業の進出としては、1966 年に国際石油開発帝石がインドネシア政府と同地域マハカム沖鉦区の生産分与契約を締結した例が挙げられる (生産分与契約は 2017 年末で終了)。

マロイバトウタトランスカリマンタンは経済特区に指定されており (パームオイル、木材産業など)、ネガティブリストの不適用 (規制分野に対する外資出資 100% 可)、タックスホリデー・タックスアローワンスの優先適用、輸入関税の留保 (保税)、輸入に係る諸税 (付加価値税、前払い法人税、奢侈税) の不徴収などの便宜が供与されている。また、外資出資規制をはじめとした条件付き投資規定も、経済特区には適用されない。

(2) 進出日系企業から見た事業・生活環境やコスト

①インフラ・物流

【空港】

主要都市間は航空網で結ばれている。主な空港は東カリマンタン州バリクパパンのスルタン・アジ・ムハンマド・スレイマン空港、南カリマンタン州バンジャルマシンのシャムスディン・ノール空港などである。前者についてはシンガポールなどに就航している国際空港である。後者は国内線のみが就航している。

【道路】

建設業者不足、湿地帯での建設コスト増などにより、東カリマンタンの主要県でも全般的に道路整備は不十分である。現在、同州都のサマリダと同州バリクパパンを結ぶ高速道路の開発が進められている。

【電力】

PLN の「PLN STATISTICS 2021」によると、2021 年の顧客あたり SAIFI (年間停電回数)、SAIDI (年間停電時間) は 2018 年の州別の電化率は、西カリマンタン州が SAIFI 19.57 回 SAIDI 21.18 時間、南カリマンタン州及び中部カリマンタンが SAIFI 9.66 回 SAIDI 12.29 時間、東カリマンタン州及び北カリマンタン州が SAIFI 9.33 回 SAIDI 11.96 時間となっている。いずれもインドネシア全体の平均より高い。

②労働事情

【人材】

2020年のカリマンタン地域の人口は1,652万人（同国全体の6.1%）である。2022年8月時点の失業率は、経済規模の大きい東カリマンタン州で5.71%と全国平均の5.86%を若干下回る水準にある。同州では労働市場の供給面での懸念は小さいと考えられる。

【賃金】

2022年の各州の月額最低賃金を見ると、比較的高い水準の北カリマンタン州（331万ルピア）、東カリマンタン州（301万ルピア）でも全国平均（360万ルピア）に比較して、やや低い（図表24-7参照）。

③生活環境

【一般】

バリクパパンなどは石油産業関連に従事する外国人が多く、生活環境が比較的整っている。東カリマンタン州には大規模なショッピングモールもある。

【食事】

和食を食べられるレストランは少ない模様であるが、寿司を提供するレストランが数件ある。

【教育】

日本人学校はなく、バリクパパンに Australian International School や Raffles Independent School などのインターナショナル・スクールが開校している。

【住居】

バリクパパンの日本人駐在員向け不動産の情報は少ない。なお、ホテルでは、市内に欧州の大手チェーンホテルであるノボテル（Novotel Balikpapan Hotel）がある。

【治安】

都市部、郊外とも比較的治安は良いとされているが、2016年11月に東カリマンタン州サマリダで教会への火炎瓶投擲事件が起こるなど、近年はテロ事件が発生している。また、スハルト政権時に国内移民同化政策に基づきジャワ島などから大量の移住民が送り込まれた経緯から、移住民と先住民との軋轢があるとされる点には注意が必要である。

【その他】

東カリマンタン州にはカラオケボックスやゴルフ場がある。

2. 主要工業団地

カリマンタンに立地する主要工業団地を以下の表にまとめた。

No.	工業団地名	Address (県/市)
1	Kaltim Industrial Estate (Bontang Industrial Estate)	Wisma KIE Lt.2, Jl. Paku Aji Kav.79 Bontang Kalimantan Timur 75313
2	Kawasan Industri Kariangau (Kariangau Industrial Estate)	Jl. Bakusi Rahmat No.45, Samarinda Kalimantan Timur - 75111

(出所) 日本アセアンセンター